

河の童

かわのわっぱ

人形劇

あらすじ

河童は、のんびり、平和にくらしています。井戸は自分の井戸で、鯉やゲンゴロウ、蟹なんかと一緒に、ゆったりゆらゆら。水はキラキラ輝いていて、世界は、そこにすべてがあります。足りないものなんてどこにもなくて。にんげんに会うと、攻撃されたりするので、なるべく会わないようにしています。でもにんげんの小さいの、こどもと遊ぶのは大好きなので、たまに相手をしてやります。村に雨が降らなくなったある時、突然にんげんたちは、それを河童のたたりだと考えて…。河童とこどもたち、そしてある少女との交流、おとなになったにんげん達と河童をめぐる物語。

河の童

河童といえば、日本人にとっても親しみのある「あやかし」ではないでしょうか。ときには、川に馬や人間をひきずりこむといういたずらな存在として、また、ときには、畏れ敬われる、神様のようにも描かれています。地域によってもさまざまな伝説や言い伝えとして、受け継がれてきました。今回デフパペットでは、河童と人間のすれ違いや、河童にとっての大切な世界を丁寧に描いて、異なる世界に生きている河童と人間に焦点をあて「共に生きるとは」その本質に迫ります。「デフ・パペット・ひとみ」だからこそ出来る表現の可能性に迫りました。ぜひご期待ください。



デフ・パペットシアター・ひとみ

ろう者と聴者が協同してつくるプロの人形劇団です。

NHKと共同で「ひょっこりひょうたん島」を製作した、人形劇団ひとみ座を母体とし、お互いの感性を活かし合った目で観て楽しめる人形劇をつくることをミッションに活動を続けています。

「河の童-かわのわっぱ-」制作にあたって

火野葦平が書き溜めた「河童曼陀羅」をベースに、河童と人間の物語を人形劇にしました。デフパペットが37年間、「聴こえない・聴こえる」という違いを超えて活動を続けてきたことが、現代においての『共生』という真の意味を考えるきっかけとなる作品になれば、と考えています。脚本・演出を手掛けるのは、様々なカンパニーの演出や脚本も手掛けながら、宮崎県立芸術劇場の演劇ディレクターも担う立山ひろみ氏。立山氏も“表現の片鱗でしかないコトバの不自由さ”という問題意識から、身体表現、音楽、映像などの要素を台詞と等価値に位置付ける、新たな表現に挑戦してきた実績のある若手演出家です。立山氏とデフパペットのろう者と聴者の感性を、対話とワークショップを重ねることで、デフパペットだからこそたどり着くことの出来る表現を創造します。

スタッフ

脚本／演出	立山ひろみ	人形美術	本川東洋子
舞台美術	大島広子	音楽	佐藤望
振付	向雲太郎	照明	後藤義夫
舞台監督	榎本トオル	美術進行	小倉悦子

